

Title	医療組織を対象とした安全文化・風土の醸成に関する研究
Sub Title	Research on developing of safety culture and climate for medical organizations
Author	福原, 輝実(Fukuhara, Terumi) 高野, 研一(Takano, Kenichi)
Publisher	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
Publication year	2011
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	<p>1999年1月に横浜市立大学附属病院で発生した患者取り違え事故をきっかけとして、医療に対する社会的なニーズは多様化し、より質の高い医療サービスが国民から求められている。医療の質については、医療事故の発生による危機意識から、特に医療の安全への要求が高まっている。しかし、日本における医療事故・医療安全研究は近年ようやく行われるようになった段階であり、極めて不十分である。医療の安全について十分な議論が行われてこなかったことから、医療事故をめぐる課題を検討するための基礎となる研究が不足している。そこで本研究では、安全な組織風土の形成に大きな影響を与える「安全文化」に着目し、医療組織において安全文化を醸成する要素の解明を行う。質の高い医療サービスを提供する医療組織を構築するために、「医療組織における安全文化診断」を構築することを目的とする。</p> <p>本研究では、質問票調査とインタビュー調査を行った。まず、調査対象である医療組織における安全文化意識の傾向を概観するため、全国の医療組織における職員を対象とした質問票調査を行った。質問票は「安全文化の8軸モデル」を基に独自に作成した設問を用いた。その結果、49の病院から4,967の質問票調査回答を回収することに成功した。</p> <p>収集されたデータはt検定(平均の差の検定)によって定量的に分析し、病院別、職種・職位別の比較を行った。</p> <p>次に、t検定の結果に基づいて選定した調査対象病院に実際に赴き、安全管理担当者と一般職員に訪問インタビューを行った。</p> <p>前述の質問票調査の分析結果をフィードバックした上で、安全文化の変化や、安全推進の取り組み内容、職場の雰囲気などの質問をした結果、3病院の16人の職員から1,017の発言が収集された。収集されたデータはコーディングにより発言内容の分類を行った。安全文化意識の傾向を比較するために職種による違いに着目し、中でも医師と看護師の2職種について回答結果の比較を行った。</p> <p>3病院に対する質問票調査において特徴的な傾向の見られた設問について、インタビュー結果と合わせて特徴を整理し、病院ごとの安全文化意識に影響する要因を抽出した。この結果、安全文化診断の妥当性が示されたこと、および診断結果の受容性が確保できたことから、医療組織における安全文化診断として確立できることが確認された。</p>
Notes	修士学位論文. 2011年度システムデザイン・マネジメント学 第67号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40002001-00002011-0013

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文

2011 年度

医療組織を対象とした
安全文化・風土の醸成に関する研究

福原 輝実

(学籍番号：80934653)

指導教員 高野 研一

2011 年 9 月

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
システムデザイン・マネジメント専攻

論 文 要 旨

学籍番号	80934653	氏 名	福原 輝実
論文題目： 医療組織を対象とした安全文化・風土の醸成に関する研究			
<p>(内容の要旨)</p> <p>1999年1月に横浜市立大学附属病院で発生した患者取り違え事故をきっかけとして、医療に対する社会的なニーズは多様化し、より質の高い医療サービスが国民から求められている。医療の質については、医療事故の発生による危機意識から、特に医療の安全への要求が高まっている。しかし、日本における医療事故・医療安全研究は近年ようやく行われるようになった段階であり、極めて不十分である。医療の安全について十分な議論が行われてこなかったことから、医療事故をめぐる課題を検討するための基礎となる研究が不足している。</p> <p>そこで本研究では、安全な組織風土の形成に大きな影響を与える「安全文化」に着目し、医療組織において安全文化を醸成する要素の解明を行う。質の高い医療サービスを提供する医療組織を構築するために、「医療組織における安全文化診断」を構築することを目的とする。</p> <p>本研究では、質問票調査とインタビュー調査を行った。まず、調査対象である医療組織における安全文化意識の傾向を概観するため、全国の医療組織における職員を対象とした質問票調査を行った。質問票は「安全文化の8軸モデル」を基に独自に作成した設問を用いた。その結果、49の病院から4,967の質問票調査回答を回収することに成功した。収集されたデータはt検定（平均の差の検定）によって定量的に分析し、病院別、職種・職位別の比較を行った。</p> <p>次に、t検定の結果に基づいて選定した調査対象病院に実際に赴き、安全管理担当者と一般職員に訪問インタビューを行った。前述の質問票調査の分析結果をフィードバックした上で、安全文化の変化や、安全推進の取り組み内容、職場の雰囲気などの質問をした結果、3病院の16人の職員から1,017の発言が収集された。収集されたデータはコーディングにより発言内容の分類を行った。</p> <p>安全文化意識の傾向を比較するために職種による違いに着目し、中でも医師と看護師の2職種について回答結果の比較を行った。3病院に対する質問票調査において特徴的な傾向の見られた設問について、インタビュー結果と合わせて特徴を整理し、病院ごとの安全文化意識に影響する要因を抽出した。この結果、安全文化診断の妥当性が示されたこと、および診断結果の受容性が確保できたことから、医療組織における安全文化診断として確立できることが確認された。</p>			
キーワード (5語) 安全文化, 医療安全, 医療事故, 医療組織, 組織風土			

SUMMARY OF MASTER'S DISSERTATION

Student Identification Number	80934653	Name	Terumi Fukuhara
<p>Title</p> <p style="text-align: center;">Research on Developing of Safety Culture and Climate for Medical Organizations</p>			
<p>Abstract</p> <p>It was the starting point that the accident of patient mistaken occurred at Yokohama City University Hospital on January 1999 and then social needs have been diversified and more high quality medical services are required by people. In terms of quality of medical service, especially needs for safety of medicine is getting higher from the sense of crisis generated by medical accident. However research for medical accident and safety has just started recently and still not enough in Japan. Basic research in order to investigate issues regarding medical accidents is insufficient because of no sufficient discussion about medical safety.</p> <p>In this research I focused on “ Safety culture” which effects on construction of secure medical institution and clarify the factors which could mature safety culture in medical institutions. And the purpose of the research is realizing “Safety culture diagnosis” for constructing medical institution which provides high quality medical service.</p> <p>In this research we carried out the survey by questionnaires and interviews. First of all I made the survey for employees of medical institutions all over Japan in order to overview the trend on the sense of medical culture of targeted medical organizations. I used original questionnaires based on “ eight axis model for safety culture”. As the result I could get the answers from 4.967 answers from 49 hospitals. I analyzed the date with t-test (test for the difference of average) and compared on hospitals, the type of job and employment position.</p> <p>Next I visited the targeted hospitals and made interviews of the person in charge of safety management and normal employees. I asked on the change of safety culture, activities on safety promotion and atmosphere of office after giving the feedback of the result of analysis on the survey. As the result I could collected opinions from 16 employees of 3 hospitals. The collected data was categorized about remarks by coding.</p> <p>I compared the result of answers in terms of two job types, a medical doctor and a nurse focusing on the differences based on job types in order to acquire trends of safety culture opinion.</p> <p>I put characteristics in order based on the result of interview and extracted the factors which effect on safety culture opinion in each hospital. As the result I made sure that this method could be established as safety culture diagnosis because of ensuring validity of safety culture diagnosis and acceptance of diagnosis result.</p>			
<p>Key Word(5 words)</p> <p>Safety culture, Patient safety, Medical accident, Medical Organization, Organizational culture</p>			